

横浜吉田中同窓会会報

(発行人 横浜吉田中学校同窓会 発行日 令和2年2月25日)

令和2年2月20日、母校体育館にて同窓会が企画後援する第5回落語観賞会が開催されました。当日会場ではこの3月に卒業予定の約140名の3年生が生徒の落語を楽しみました。今回は昨年に引き続き桂歌丸師匠の5番目のお弟子さんの桂枝太郎師匠と若手の桂りょう治さんの二人にご出演いただきました。



(新作落語で会場を笑いに包む桂枝太郎師匠)

落語を始める前に舞台上に立った枝太郎師匠が『落語は声や仕草を変えることで一人で何役も登場人物を演じます。また小道具として扇子や手ぬぐいを使ってその仕草をイメージする日本独特の話芸です』と説明して、『観客は話を聴きながら演ずる場面を想像して楽しむ知的な芸でもあります』と紹介しました。

また枝太郎師匠は高校3年の時に地元(岩手県奥州市)で生の落語を聞いたことが落語家になるきっかけとなったことなどエピソードを語り、『日常のなかに絶えずアンテナをはって、自分が打ち込めること、好きなことを見つけて、これからの新しい人生に向かってほしい』と卒業する3年生にエ

ールが贈られました。

このあとの一席では前座の桂りょう治さんが『転失気(てんしき)』という古典落語を熱演しました。冒頭、転失気の意味が分らず、会場では静かに聴いていたのが、途中で「放屁」



とわかるとクスクスといった笑いが起き始められました。

桂りょう治さんは平成

7 (熱演する桂りょう治さん) 年

生まれで11代目代目桂文治師門下の若手落語家さんです。続いての高座では枝太郎師匠が新作落語『アンケートの行方』を演じ学校と職場からのアンケートを家に持ち帰った親子がアンケートを取り違えて、お互い場違いの回答をしてしまい、会場は爆笑の渦の連続となりました。

約一時間の観賞会は落語を聴くのは初めてという生徒さんが多かったにもかかわらず大いに盛り上がりました。

なお、開演に先立ち同窓会

の中村会長(右の写真)が

『今年で5回目となる落語観賞会ですが、一昨年亡く



なった桂歌丸師匠が吉田中学校の卒業生だったことが縁で始まった『落語観賞会』が先生方や生徒さんのご理解とご支援を得て開催できたことを心から喜んでいきます。3年生には卒業記念となることを望んでおります』と挨拶しました。また今回の落語観賞会は2月24日午後5時のJ:COMチャンネルで地域のニュースとして『歌丸師匠の母校で落語文化を伝える会』と題して放映されました。